第23回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

秀作

未来への投資：僕たちが作る日本の新しいかたち

岡山県・岡山県立岡山大安寺中等教育学校　４年　林　宗一郎

僕たちが大人になる頃、日本はどんな姿をしているだろうか。ニュースでは「人口減少」や「経済の停滞」といった言葉が繰り返され、未来に漠然とした不安を感じることもある。でも、僕はこの状況を単なる危機ではなく、日本が新しい価値観へと生まれ変わるチャンスだと考えている。それは、人の「数」で価値を測る時代から、一人ひとりの「質」に価値をみる時代への転換だ。

この「質」への転換とは、僕たち若い世代の可能性のことで、この「質」への投資こそが未来を切り拓く鍵であること。そしてそこにある「質」への転換を阻む社会の矛盾、さらに僕たちが果たすべき役割について考えてみたい。

日本の労働力となる人口は減ることが予想されている。このような社会で経済を成長させることは、一見すると難しそうに思える。でも、本当に大切なのは労働者の「数」だろうか？　たとえば、10人で100の価値を生み出していた工場が、8人に減ったとしても、一人ひとりの能力が高まり、新しい技術を使いこなせるようになれば、同じかそれ以上の価値を生み出すことができる。もし一人あたりが12.5の仕事ができれば、全体の価値は変わらないし、15になれば経済は成長する。

これは単なる理論ではない。ＡＩやロボット技術が進化する今、求められるのは単純な労働力ではなく、アイデアや問題解決力といった、人間にしか生み出せない「付加価値」だ。僕たちの学びが深まるほど、一人ひとりの力は大きくなり、それが社会全体の豊かさにつながる。これからの時代に本当に必要なのは「数」ではなく、「価値」なのだ。そして、その価値を高めるために必要不可欠なものは、教育だ。

しかし、希望の源であるはずの「教育」が、逆に少子化を加速させているという深刻な矛盾がある。子ども一人を育てる教育費は、塾や習い事を含めると2,500万～4,500万円にもなると言われている[注)]。親が子どもの将来のために、

©J-FLEC2025

できるだけ良い教育を受けさせたいと思うのは自然なことだ。でも、その思いが強いほど、「これだけお金がかかるなら、子どもを多く持つのは難しい」と考えてしまうのもある意味では、正しい判断だ。

個々の家庭にとっては最善の選択が、社会全体としては人口減少という結果を生む。この矛盾こそ、僕たちが向き合わなければならない、根深い社会問題だと思う。

では、この大きな問題を前に、僕たち高校生に今できることは何だろうか。僕は、二つの大切な行動があると思う。

第一に、日々の学びの意味を見つめ直すことだ。僕たちが受けている教育は、ただ良い大学に入って安定した仕事に就くためのものではない。それは、日本の「質」を支えるための、大切な準備でもある。数学は未来の技術を生み出す力になるし、歴史や社会を学ぶことは、社会の矛盾のような複雑な問題を理解し、より良い社会を作るための土台になる。僕たちが、未来の日本を作るのだという誇りを持つべきだ。

第二に、自分自身が自ら考え行動し日本の新しい価値を生み出す実践者だと自覚し、準備を始めることだ。たとえば、プログラミングを学んで社会問題を解決するアプリを作ってみたり、地域の特産品を活かしたビジネスプランを考えて、文化祭で発表してみる。大切なのは、与えられた問題を解くだけでなく、自分で課題を見つけ、解決策を考える力だ。僕たちの探究心や創造性が、未来の日本経済を支える新しい産業の種になると信じている。

日本の未来は、「量」の時代から、僕たち若者たちに託された「質」の時代に変化していくだろう。僕たち高校生は、自分たちが日本の最も大切な「資産」であることを自覚し、その価値を高める努力を続けていかなければならない。僕の成長こそが、新しい日本経済への最も確かな貢献だと信じて、今日も未来への投資を続けていく。

（注）
以下の３つの資料の数値を基に、養育費と教育費（国公立～私立理系）を合算した概算値として記述した。
（１）文部科学省「令和３年度子供の学習費調査」（2022年）
（２）日本政策金融公庫「令和３年度教育費負担の実態調査結果」（2021年）
（３）内閣府「平成21年度インターネットによる子育て費用に関する調査」（2010年）

©J-FLEC2025